

家庭科における金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection®」の活かし方

～出張授業を活用した授業運営～

認定特定非営利活動法人育て上げネット 理事 深谷 友美子

1. はじめに～家庭科教育と「MoneyConnection®」

このたびは金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection®」を本誌にて再びご紹介する機会をいただき、誠にありがとうございます。

初めて取り上げていただいたのはちょうど今から3年前、2013年9月発行の「じっきょう家庭科資料No.51」です。その当時、本プログラムの活用先は、進路指導部を窓口とする総合的な学習の時間やLHRの時間での進路イベントがほとんどでした。元々このプログラムは「若年者の無業化を予防するためのキャリア教育」という位置づけで開発されましたので、その趣旨に沿った活用が進んでいたと受け止めています。

その後、2012年12月に施行された「消費者教育の推進に関する法律」に準拠した取り組みが教育現場に浸透してきた影響も出始め、家庭科教育を担われる先生方からのお問い合わせが少しずつ増えてきました。

高等学校学習指導要領で家庭科の目標を見てみると、「人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解させると共に、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」とあります。これはまさに家庭科が、現代社会を生きていくために前提として必要なことを学ぶ教科であると感じています。

「MoneyConnection®」の事務局を担う私たち育て上げネットは、「若者と社会をつなぐ」を法人理念として掲げ、無業化状態に陥ってしまった若者が経済的に自立した生活を送れるようになるための支援を行うと共に、不本意に無業状態になる、ひいては社会から孤立してしまうことを予防するための取り組みとして、生きていくために必要な情報を提供するためのキャリア教育を企画し、運営してきました。

た。

これらを広くいきわたらせるためには、上記のような目標のもとに存在する家庭科との連携が非常に有効ではないかと近年強く思っています。

今後、私たちの取り組みと家庭科教育との連携が一層進むことを期待すると共に、先生方におかれましても、「MoneyConnection®」が教材研究、授業運営の一助となれば幸いに思います。

以上のような考え方をもとに、今回はMoneyConnection®事務局が派遣する講師による出張授業の運営に焦点を当てて、その活用事例と成果、具体的な導入方法をご紹介します。

2. 金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection®」の概要と出張授業の特徴・弱点（ジレンマ）

金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection®」は、若者が無業状態に陥る原因の一つに「お金に関する知識や金銭感覚の欠如」があることに着目し、「社会のリアルな情報を若者に届ける」ため、株式会社新生銀行と認定特定非営利活動法人育て上げネットが共同で開発しました。

プログラムは「お金と仕事」について学ぶ「稼ぐ」編、「モノの価値と自分の価値観」について学ぶ「使う」編で構成されており、いずれも一般的な高等学校の1校時に合わせ、45～50分で実施できる内容です。

これまでの導入実績では、実施数全体の9割超が「稼ぐ」編の活用となっています。その内容は、冒頭で一人暮らしの生活費予想を行い、生徒の「お金」への関心を引きつけつつ、年齢・職業・雇用形態・月収などを設定したカードを使いながら、「働く」ことをシミュレーションし、長期的な観点から将来の生活をイメージすることで、自分の進路や生活について考える「きっかけ」を提供しています。グループワークを中心としたプログラムなので、楽しみながら「お金と仕事」について学ぶことができま

す（詳細はホームページをご覧ください）。

具体的な活用方法は2通りあります。一つは、MoneyConnection®事務局が提供する教材（あるいは教材データ）を入手いただき、先生方自身で実施するという方法です。ふたつ目は、専任の外部講師による出張授業を受け入れることです。

出張授業を運営する専任講師は、MoneyConnection®事務局が主催する講師養成講座を修了したキャリアカウンセラー、ファイナンシャルプランナー、民間企業従事者など、リアルな社会で経験を積む社会人です。専用のマニュアル、ワークブック（非売品、講師養成講座受講者のみに提供）を使用して

○働き方の違いなど一般情報をわかりやすく伝える独自の工夫

○プログラムのテンポの作り方

○教室内のコントロールの仕方

などを習得しています。また、全国に約120人の講師が在籍しているので、学年一斉の授業に対応できる、学校が希望する実施日に伺える可能性が高い、という強みがあります。

その反面、出張授業の提供側として（時には学校側でも）もどかしく感じてきたことがあります。それは、「きっかけ」を提供するという立ち位置を自覚するものの、1回きりの進路イベントなどで実施した場合、その「きっかけ」を次につなげることができたのか、あるいは生徒が自らの気づきを深めたり、定着させたりする機会は設けられたのか、この点についてフォローをしたり、見届けたりする機会を持つことが難しいということです。せっかくの機会提供が単なる非日常の時間をひととき過ごさせただけ、ということになる可能性もあります。本稿を読まれている先生方の中には、それだから外部人材による出張授業は導入しづらい、と思われている方もおられるのではないのでしょうか。

このジレンマを回避する取り組みとして有効性を感じているのが、教科単元の中で「教材として」出張授業を活用していただく方法です。先生方の授業計画の中で、事前学習や事後学習と連動させることが可能となるからです。

これにならった取り組みの一例を次のとおり紹介します。

表1 神奈川県立川崎高等学校における「MoneyConnection®」実施概要（2015年度）

科目	家庭基礎	家庭総合
実施時期	1年生※の1月～2月	2年生※の1月～2月
受講人数	157名（7講座）	107名（6講座）
導入単元	経済的に自立する 「ライフステージと経済計画」	経済的に自立する 「ライフステージと経済計画」
MoneyConnection® 実施時間	1校時90分のうち60分	1校時90分
MoneyConnection® 進行概要 (出張授業の提供内容)	導入・事前アンケート（7分） 一人暮らしの費用予想と解説（10分） シミュレーションワーク（10分） 働き方の特徴について解説（5分） ワークシート2感想シート記入（15分） まとめ（5分） 事後アンケートの実施など（8分） 計60分	アイスブレイク・導入（10分） 事前アンケート（5分） 一人暮らしの費用予想と解説（15分） シミュレーションワーク（15分） 働き方の特徴について解説（5分） ワークシート2感想シート記入（15分） シミュレーション結果をグループ共有（5分） まとめ（5分） 振り返りシートの記入（7分） 事後アンケートの実施など（8分） 計90分
その他	残り30分で学校独自のアンケートを用いて実施結果をフォローする。	実施翌週に1校時（90分）を活用して実施内容をフォローする。 より現実的なお金の情報（進学費用、奨学金）をテーマに取り上げている。

※ 単位制のため、他学年生徒も若干名受講している。

3. 家庭科における出張授業活用事例—神奈川県立川崎高等学校の場合—

神奈川県立川崎高等学校（以下、県立川崎高校）では、2014年度、2015年度と2年度にわたり、本プログラムを導入しています（初年度は新生銀行協賛による無償提供枠を利用。2年目は行政の自立支援事業における高校連携の枠組みを利用※1）。

県立川崎高校は単位制普通科で全日制、定時制が一体となって運営されるフレキシブルスクールという特徴を持つ学校です。家庭科については、家庭基礎、家庭総合のいずれかを選択することができ、それぞれ「新家庭基礎 パートナーシップでつくる未来」「新家庭総合 パートナーシップでつくる未来」（いずれも実教出版発行）を教科書として採用し、授業が展開されています。

2015年度の実施概要は、表1（前頁）のとおりです。

先述のとおり、「MoneyConnection®」は45～50分で完結できるように設計されています。出張授業としてご提供する際には、受講生徒の状況（基礎学力や理解力など）や終了時の目標設定（「きっかけ」をゴールとするか、「情報の定着」まで期待するかなど）について、担当の先生より聴き取り、それに合わせて進行時間を設定することが可能です。前者であれば、プログラム本来のゲーム的な要素を最大限に活かす展開を、また後者であれば、重要な情報は書き取らせる、振り返りを目的としたワークシートに取り組みさせるなどがその一例です。

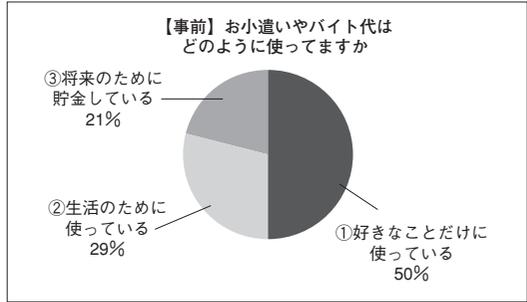
県立川崎高校においては、関連単元に2校時を費やすことができる「家庭総合」の授業では90分に膨らませて、また1校時で完結させたい「家庭基礎」では授業時間の3分の2を「MoneyConnection®」に充て、残りの時間を担当教員による学校独自のアンケート実施により授業内容をフォローする、という進め方を選択されました。

こうした学校の取り組みにより、前章で掲げた出張授業のジレンマがフォローされ、効果的に活用された好事例となりました。

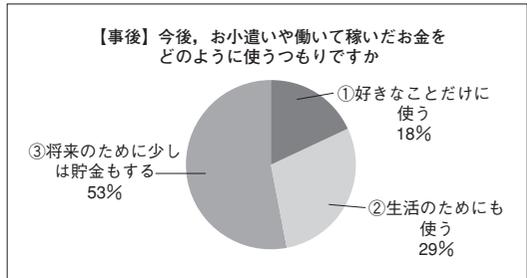
このプログラムを通して、生徒は何を感じ、どのような変化がもたらされるのか、という効果について

※1 育て上げネットが受託する若年者自立支援事業の一環として実施。地域によってはこうした枠組みが適用できる場合があります。

グラフ 1



グラフ 2

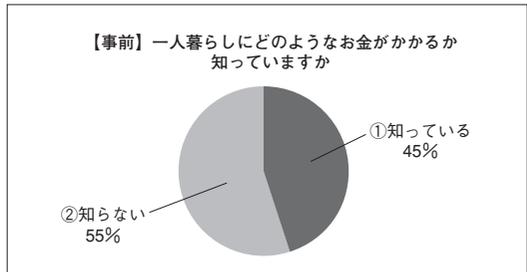


て264名のアンケート結果を元に紹介します。

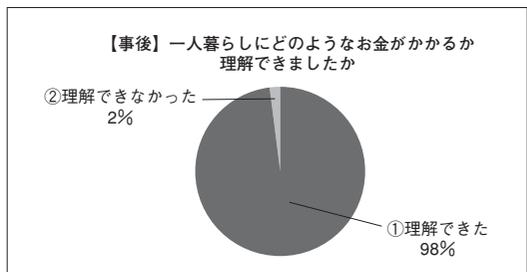
グラフ1、グラフ2では、お金の使い方に関する受講前後の意識の違いを見ることができます（基礎・総合を合算）。この結果から、少し先の将来にも目を向けるきっかけが提供できていることが確認できます。

次にグラフ3とグラフ4では、生活コストに関する情報の保有の状況と、受講後の理解度を対比しています。MoneyConnection®の出張授業は一人でも

グラフ 3

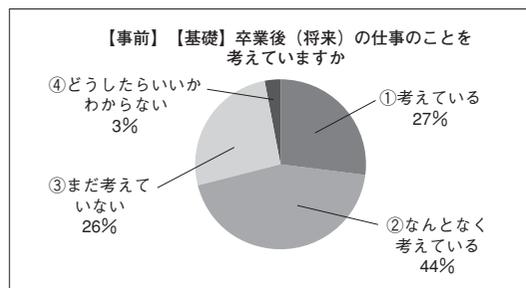


グラフ 4

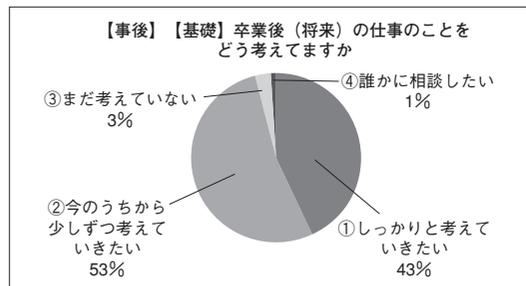


多くの生徒が提供された情報を受け止められるよう、先生方の視点で見ると簡潔すぎと言われるほど情報量を絞り込み、かつ、講師の主観を交えずにリアルな内容を伝えるようにしています。この点がグラフ4に反映されていればと、提供者として期待するところです。

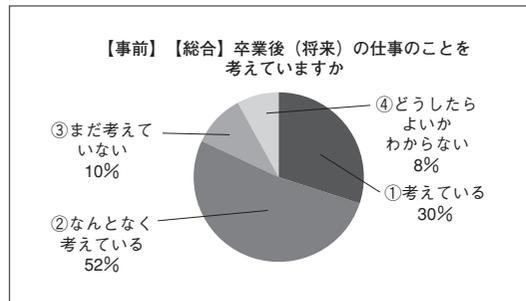
グラフ5からグラフ8は卒業後の進路についてどう考えている、という点について受講前後の比較でグラフ5



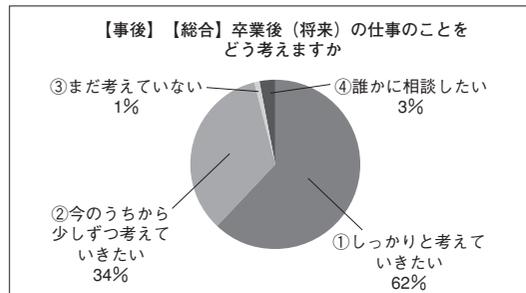
グラフ6



グラフ7



グラフ8



す。この設問は、家庭基礎(主に1年生)、家庭総合(主に2年生)で顕著な差が見られるため、それぞれの回答結果をご紹介します。

いずれも「考えていこう」という前向きな変化が見られます。先生方が実施時期を検討される場合、家庭科の単元の視点で判断されると、概ね家庭基礎なら1年生、家庭総合なら2年生という結論に至るかもしれません。育て上げネットの自立支援の立場から提案させていただければ、例えば進路指導との連動も検討要素に加えられたら、より活用意義が高まるのではないかと考えています。

進路指導の一環としての提供経験を振り返りますと、2年次後半の受講はグラフ8にも見られるとおり、プレッシャーがかかるタイミングになります。1年次後半の場合、将来のために学校生活を見直したりできる、リカバリーが可能なタイミングです。授業で学んだことをすぐに自分の生活に反映させられます。現実的には、教科や進路指導が有機的に連携することはカリキュラム上難しい状況を少なからず承知していますが、若者支援者としては学校現場でこうした点を積極的に取り入れていただけようになれば、と願っています。

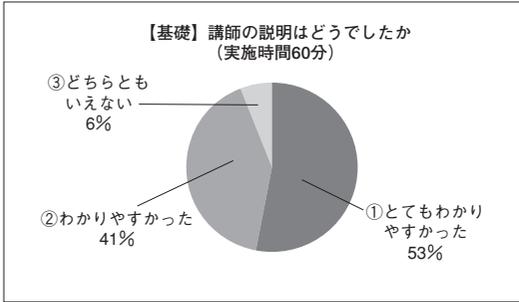
最後にグラフ9からグラフ12は、担当講師ならびに進行時間に関する生徒による評価です。基礎と総合で授業時間が異なりますので、別々に集計しました。わかりやすさについては、学校での事前指導などの連関が影響していることも織り込まれた上で、検討材料としていただければと思います。

本章をまとめるにあたり、県立川崎高校で授業を担当された家庭科教員・横松彩美先生に出張授業活用の理由をお尋ねしたところ、次のような回答をいただきました。

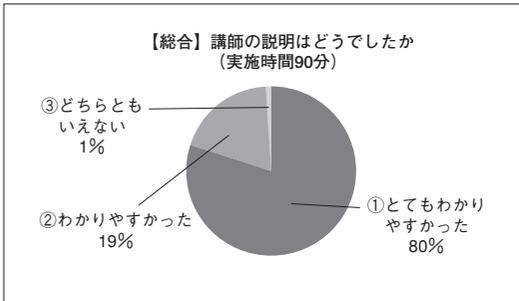
- 家庭科教員の数が限られていること
- 授業には教員のカラーが反映されるのであえて違う視点からの展開を導入したいと考えていること
- 多様なキャリアを持つ学校外の人の話は生徒に刺激を与えるということ
- 外部人材との関わりの中で生徒が普段見せない別の姿を見ることができると

以上の4点です。実際に導入されたお立場から「授業素材などを集めたり用意したりということ、ひとりで頑張られている先生こそ、ぜひ活用してみると良いと思います」とのメッセージをいただきました。

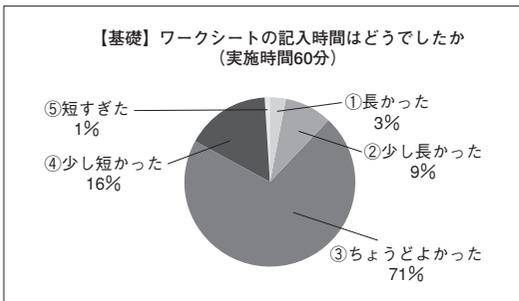
グラフ 9



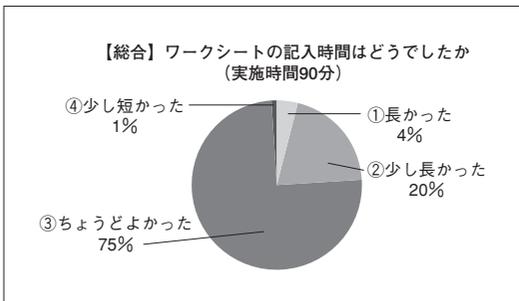
グラフ 10



グラフ 11



グラフ 12



合わせて出張授業ではなく、ご自身で教材を用いて実施することについてのお考えも伺いました。それについては、「プログラムを実施することはできるが、ワークシートやカードなどアイテムの多いプログラムなので、自分ひとりで実施しようとすると、ワークシートなどをまとめて配付する必要があり、プログラムの持ち味である、ふわっとした盛り上が

りをつくるためには展開の工夫が必要かもしれないですね」というお返事でした。

4. 「MoneyConnection®」の利用方法

最後に、具体的な利用方法を紹介します。

(1) 出張授業の活用

【プログラムの継続的な活用】

原則として有償、授業規模に応じた講師料（地域によっては交通費）をご負担いただいています。

一般的に企業などからの無償出張授業は、提供側の事情が優先され、実施日程や時間帯が限られていたり、複数クラスに対して同時展開ができなかったり、というような制約があると聞きます。

私たちがお引き受けする出張授業は、そうした制約を設けず、学校側の都合に可能なかぎり寄り添うことを旨とし、それを実現するために、実施費用をいただいております。ご理解いただければ幸いです。

・出張授業費用のめやす

費用のめやすは次のとおりです。1会場（クラス/21名以上40名程度まで）に、講師を2名派遣するのが基本スタイルとなり、その場合にかかる費用は、概ね5万円（1クラスあたり/消費税別/地域によっては交通費別・教材費を含む）程度です。

実際には、事前に学校事情をお聞きし、提供方法を工夫することにより、費用軽減が可能な場合があります。

・かかる費用をどのように用意するか（これまでの事例）

かかる費用をどのように調達したらよいか、それを考えなければいけないために、利用を躊躇されてしまうという話をよくお聞きます。事務手続きのルールは自治体単位、学校ごとに異なるようですが、これまでお伺いした高校での実施費用調達の様子を拝見するかぎりでは、所定の講師謝金として用意された学校、業務委託費として年間予算に組み込まれる学校など様々な方法があるようです。

また、家庭科ならではの方法として、1クラスあたりの受講生徒数が40名程度であれば、教材費（実習費）としてお支払いいただくことも可能です。かかる費用のめやすは、生徒ひとり当たり教材費300円（消費税別/地域によっては交通費別）。ただしこの方法の場合は、通常1会場に講師1名の派遣となり、先生方に運営のサポートをお願いしております。

【プログラムを初めて活用する場合】

高等学校および高等専修学校において、全校を通じて初めて「MoneyConnection®」の導入を希望される場合、株式会社新生銀行の協賛金による、無償出張授業をご活用いただけます（全国に出張可能）。

詳細につきましては、本プログラムのホームページでご確認ください。

<http://moneyconnection.jp/inquiry/index.php#muryoujyugyou>

ちょうどこの記事が発行されるころ、来年度の校内予算や授業計画が検討される時期に差し掛かるのではと思います。また、多くの学校が生活設計に関する単元の実施を3学期に控え、授業計画を検討されるころであるかもしれません。来年度以降の授業計画検討に向けて、まずは無償出張授業を活用して自校における有用性を確認・検証されてみるのも一つの方法ではないかと思えます。

(2) ライセンスフリー教材あるいは頒布教材を調達して先生方が実施する方法

学校教育機関において、先生方が勤務校の生徒に対して提供する場合に限り、教材ならびに簡易運営マニュアルを電子ファイル（無償）で提供しております。これらを使用して、先生方ご自身でプログラムを実施することが可能です。

また、教材印刷の手間の削減には、公式教材をお買い求めいただくこともできます。

さらに、企画意図や運営のポイントなど、本プログラムの特徴を最大限に引き出すための運営方法について情報提供する機会として、「MoneyConnection®講師養成講座」を開催しています。

今年度中は以下の日程で開催を予定しています。

○東京会場

2017年2月4日（土）、2月5日（日）

○大阪会場

2017年2月11日（土）、2月12日（日）

詳細はこちらをご参照ください。

<http://moneyconnection.jp/lecturer/>

5. おわりに

金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection®」は2006年に本格的に事業を開始して以来、今年で11年目を迎えます。多くの先生方にご賛同いただき、2016年3月31日現在、のべ709校、94,543名の高校生にこのプログラムを提供することができまし

た。

振り返れば、このプログラムが誕生したきっかけは、無業状態に陥った若者の「生きていくために必要なお金のことを学校とかでもっとちゃんと学んでいたら、今みたいな状況にはなっていなかったかもしれない」という声を聞いたことから始まります。

学校は必修科目、選択科目と多様な教科を学ぶ機会を提供しています。授業を受ければ、教養や知識、知恵の習得が可能です。自分自身の高校時代を思い出すと、5教科の学習が中心で、毎日の生活に関わる当たり前なことを教わる機会は少なかった気がします。家庭科は得意とする科目でしたが、記憶のほとんどは、調理や被服など実習を伴う授業の様子です（当時とは学習指導要領が変わっていることもありますが）。特に日々の生活費のこととなると、家庭の中でもリアルな話に触れる機会は、ほとんどありませんでした。

近年は、「大卒でも無職になる」可能性がある時代です。

ひとりでも多くの若者がそうしたリスクを回避するための働きかけの一つとして、「MoneyConnection®」のような金銭基礎教育が、就職や高等教育機関へ進む手前の高校生に対して、必修プログラムになることを願っています。その実現には、教科の中で活用が進むことが望ましく、数ある教科の中で親和性の高い教科が、「人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえる」ことができる「家庭科」ではないか、と考えています。

ひとりでも多くの家庭科教員のみならずこのプログラムの情報が届くことを期待しつつ、私たち自身もできるかぎり学校教育のお役に立てるよう、日々研鑽を積んでまいりたいと思います。

MoneyConnection®に関心をお寄せいただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

お問い合わせ・お申し込み先
MoneyConnection 事務局
(認定特定非営利活動法人育て上げネット内)
〒190-0011
東京都立川市高松町2-9-22 生活館ビル3階
電話 042-527-6051 FAX 042-548-1368
E-mail kyoiku-toiawase@sodateage.net
ホームページ <http://moneyconnection.jp/>
※ホームページからもプログラムに関するお問い合わせが可能です。